

第3回日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議

次 第

日時：令和8年5月29日（金）午後2時～

場所：宮崎県庁7号館4階 744号室

1 開 会

2 挨 拶

3 報告事項

（1）日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議規約改正について

資料1

（2）日南線（油津・志布志間）の沿線住民アンケート調査結果について

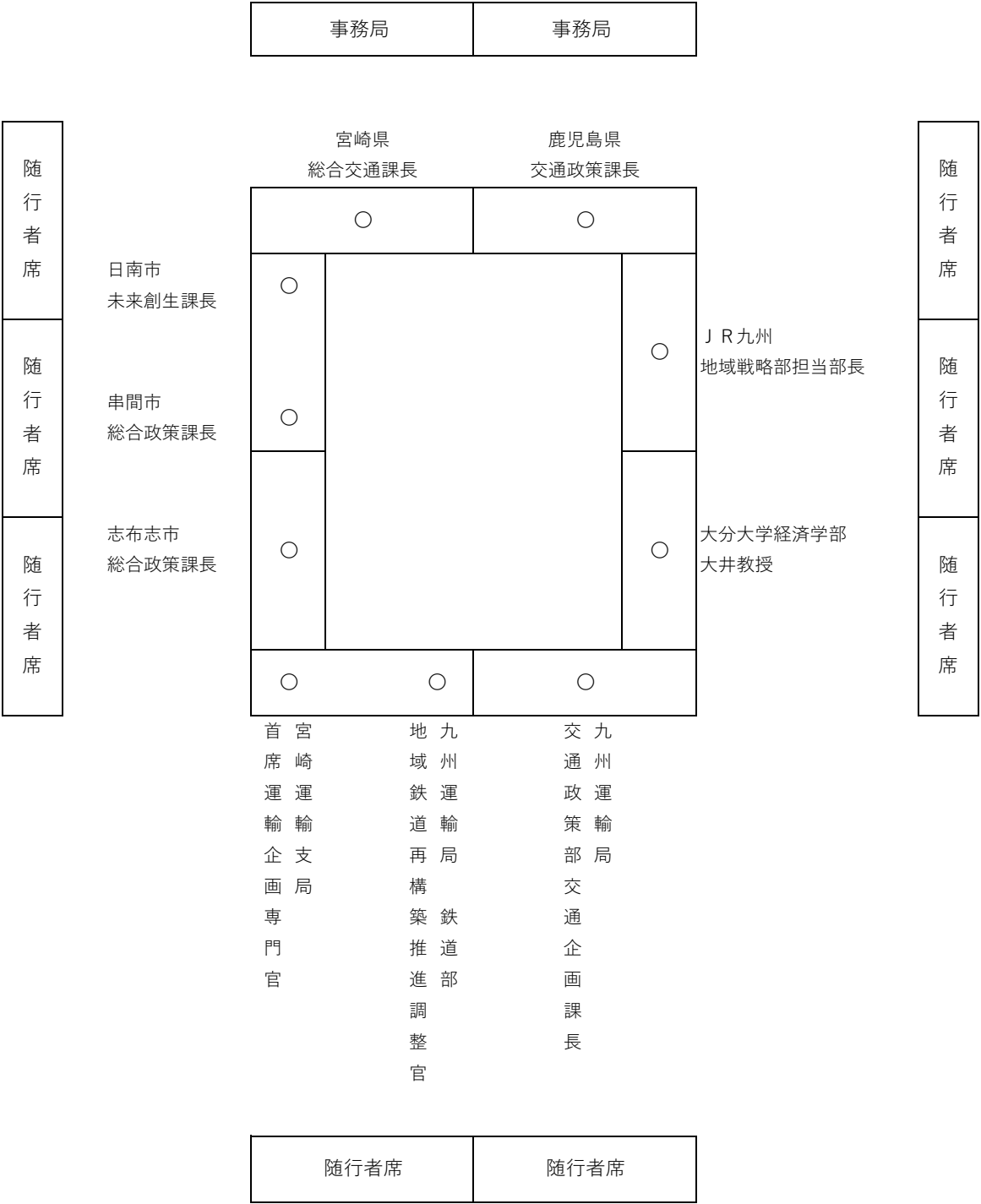
資料2

4 意見交換

5 そ の 他

6 閉 会

第3回 日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議 配席図



第3回 日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議

出席者名簿

委員

	所属名	職名	氏名	備考
1	宮崎県総合政策部総合交通課	課長	内山 裕 弥	県
2	鹿児島県総合政策部交通政策課	参事兼課長	鈴木 圭 祐	県
3	日南市総合政策部未来創生課	課長	古澤 慎一郎	沿線市
4	串間市総合政策課	課長	内山田 修二	沿線市
5	志布志市総合政策課	課長	川上 桂一郎	沿線市
6	九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 地域交通まちづくり部	担当部長	中島 剛 志	鉄道事業者
7	大分大学経済学部	教授	大井 尚 司	有識者

オブザーバー

1	国土交通省九州運輸局 交通政策部交通企画課	係長	井上 太 輔	国：代理
2	国土交通省九州運輸局 鉄道部	地方鉄道再構築推進調整官	津留 崇 明	国
3	国土交通省九州運輸局 宮崎運輸支局	首席運輸企画専門官	寺次 英 修	国

日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議規約改正について

委員所属の組織改正等に伴い、日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議規約（令和 7 年 10 月 28 日定め）の一部を次のように改正した。

改正前			改正後		
別表（第 5 条関係） （委員）			別表（第 5 条関係） （委員）		
所属	役職名等	備考	所属	役職名等	備考
宮崎県総合政策部総合交通課	課長	県：会長	宮崎県総合政策部総合交通課	課長	県：会長
鹿児島県総合政策部交通政策課	課長	県：副会長	鹿児島県総合政策部交通政策課	課長	県：副会長
日南市総合政策部未来創生課	課長	沿線市：監査委員	日南市総合政策部未来創生課	課長	沿線市：監査委員
串間市総合政策課	課長	沿線市	串間市総合政策課	課長	沿線市
志布志市総合政策課	課長	沿線市	志布志市総合政策課	課長	沿線市
九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 <u>地域戦略部</u>	担当部長	鉄道事業者	九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 <u>地域交通まちづくり部</u>	担当部長	鉄道事業者
大分大学経済学部	教授 大井 尚司	有識者	大分大学経済学部	教授 大井 尚司	有識者
参考（オブザーバー）			参考（オブザーバー）		
所属	役職名等	備考	所属	役職名等	備考
国土交通省九州運輸局 交通政策部交通企画課	課長	国	国土交通省九州運輸局 交通政策部交通企画課	課長	国
国土交通省九州運輸局 鉄道部 <u>計画課</u>	<u>課長</u>	国	国土交通省九州運輸局 鉄道部 <u>地方鉄道再構築推進調整官</u>		国
国土交通省九州運輸局 宮崎運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	国	国土交通省九州運輸局 宮崎運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	国
国土交通省九州運輸局 鹿児島運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	国	国土交通省九州運輸局 鹿児島運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	国

日南線（油津・志布志間）の 沿線住民アンケート結果について

令和 8 年 5 月

沿線住民アンケートの実施経緯、目的および概要

実施経緯

- ・ 令和7年12月に鉄道の乗込調査、鉄道利用者及び沿線6つの高校の生徒へのアンケート調査を実施し、第2回検討会議で日南線の利用の中心は学生であること、通学を除いた社会人や高齢者の利用が少ないことを確認した
- ・ 第2回検討会議での「次回の会議までに、今回の調査で把握できていない鉄道を日常的に利用していない方に関する意見を把握することとし、その方法等については、今後、事務局等で検討し、委員に諮った上で実施する。」というまとめを踏まえ、検討会議を主体として実施するもの

目的

- ・ これまでの調査では十分に把握できていなかった「鉄道沿線の日常的に利用していない方（主に社会人や高齢者）」を含めた沿線住民にアンケートを行い、移動実態を可視化する
- ・ 鉄道を日常的に利用していない方も含めた沿線住民の生活パターン等を具体的に把握・分析することで、持続可能な地域交通のあり方の議論に繋げる

調査概要

- ・ 実施期間：令和8年4月10日～4月23日（当日消印まで有効）
- ・ 主な調査項目：移動目的別（①買物②通院③通勤④その他）の移動状況、日南線の利用状況、回答者の属性等

アンケートの配布数と回答結果

- 沿線住民を対象としたアンケートは、1,250名に配布し、428名の方から回答を得た（回答率34%）

項目		日南市	串間市	志布志市
対象者		油津～志布志間各駅の半径 2 km圏内に居住する19歳以上の住民 (住民基本台帳データに基づく無作為抽出)		
配布数	全体	1,250名		
	3市別※1	600名	350名	300名
配布方法		郵送による配布		
回答方法		郵送（切手不要）またはWebフォームの いずれかにより回答		
回答数 (回答率)	全体※2	428名（内訳：郵送279名、Web149名） (34%)		
	3市別※3	183名 (30%)	145名 (41%)	85名 (28%)

※1：配布数は沿線3市のJR駅2km圏の人口比を参考に決定した
※2：回答は428名の方から受領したが、一部非回答のものも含まれているため、サンプル数nは設問の内容により変わる場合がある
※3：居住地未回答の方15名は、全体の回答数には含めているが、3市別の回答数には含めていない

移動目的×外出頻度

- 【買物・通勤】 目的の外出頻度は週に1日以上の方が9割強である
- 【通院】 目的の外出頻度は週に1日以上の方が1割程度である

【買物】

【通院】

【通勤】

移動手段	件数 (名)	割合 (%)	移動手段	件数 (名)	割合 (%)	移動手段	件数 (名)	割合 (%)
週に5日以上	105	24.9	週に5日以上	11	2.7	週に5日以上	176	73.0
週に3~4日	129	30.6	週に3~4日	7	1.7	週に3~4日	42	17.4
週に1~2日	151	35.9	週に1~2日	26	6.3	週に1~2日	13	5.4
月に1~2日	25	5.9	月に1~2日	152	36.1	月に1~2日	3	1.2
月に1回未満	11	2.6	月に1回未満	216	51.3	月に1回未満	17	7.1
合計	421	100	合計	412	100	合計	241	100

移動目的×交通手段

- 移動目的によらず、**自家用車（自身で運転）**を主な移動手段としている人の割合が**8割を超えて**おり、**公共交通利用者は2～5%**である
- 移動目的によらず、公共交通利用者の中では**JR（鉄道）**を利用している方の割合が**最も高く全体の1～2%**である

【買物】

【通院】

【通勤】

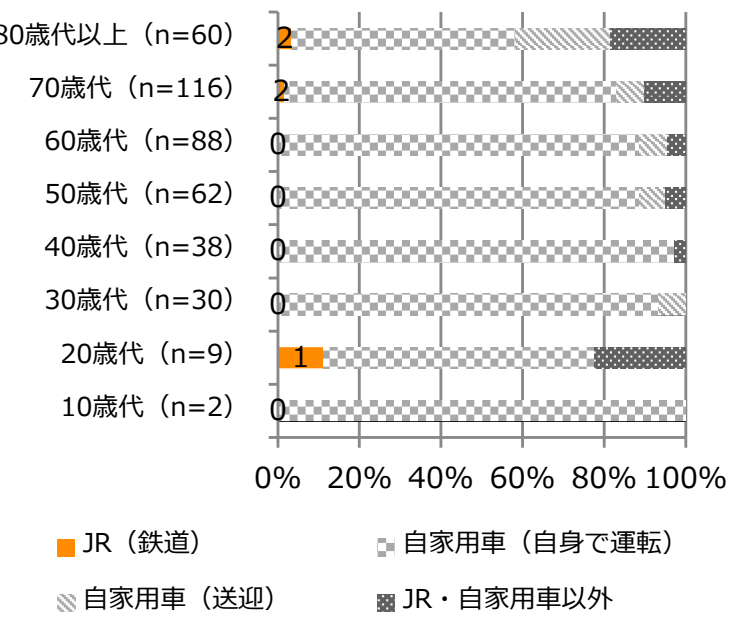
移動手段			移動手段			移動手段		
移動手段	件数 (名)	割合 (%)	移動手段	件数 (名)	割合 (%)	移動手段	件数 (名)	割合 (%)
自家用車（自身で運転）	342	82.0	自家用車（自身で運転）	342	82.0	自家用車（自身で運転）	195	80.9
自家用車（送迎）	35	8.4	自家用車（送迎）	27	6.5	自家用車（送迎）	10	4.1
			病院の送迎	5	1.2			
公共交通利用者※1	13	3.1	公共交通利用者※1	21	5.0	公共交通利用者※1	5	2.1
JR（鉄道）	6	1.4	JR（鉄道）	8	1.9	JR（鉄道）	2	0.8
路線バス・コミュニティバス	3	0.7	路線バス・コミュニティバス	7	1.7	路線バス・コミュニティバス	2	0.8
タクシー（志布志市のチョイソコ・乗合タクシー含む）	4	1.0	タクシー（志布志市のチョイソコ・乗合タクシー含む）	6	1.4	タクシー（志布志市のチョイソコ含む）	1	0.4
バイク	3	0.7	バイク	3	0.7	バイク	3	1.2
自転車	9	2.2	自転車	6	1.4	自転車	8	3.3
徒歩	15	3.6	徒歩	13	3.1	徒歩	20	8.3
合計	417	100	合計	417	100	合計	241	100

※1：公共交通利用者は、JR（鉄道）、路線バス・コミュニティバス、タクシー利用者を指している
本アンケートは油津～志布志間各駅の半径 2 km圏内に居住する19歳以上の住民を対象に実施した

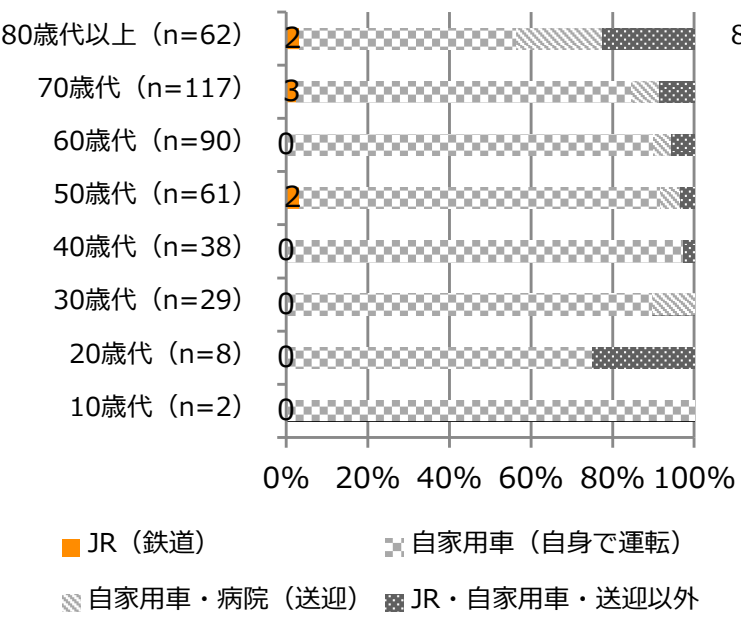
年齢×交通手段

- 自家用車（自身で運転）が最も多い
- 80歳代以上になると送迎（自家用車・病院）の割合が増加し2割を超える

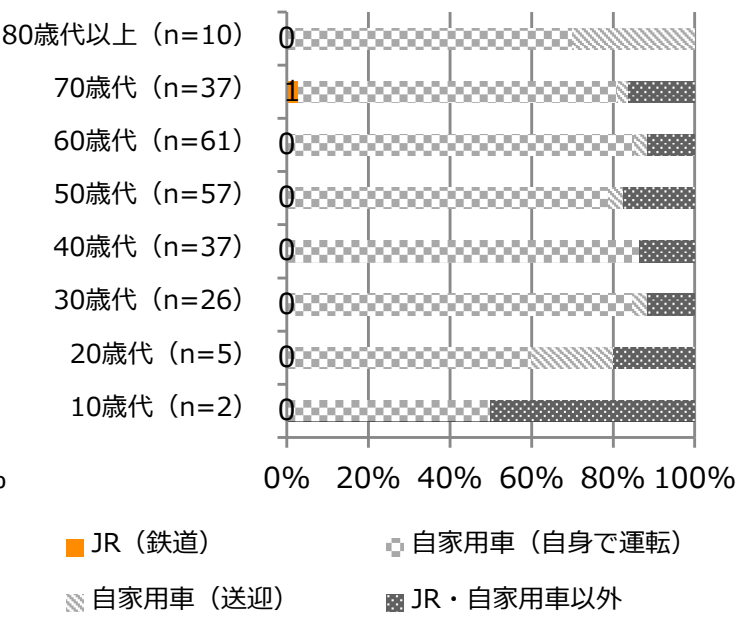
【買物】移動時の主な交通手段をお答えください。



【通院】移動時の主な交通手段をお答えください。



【通勤】移動時の主な交通手段をお答えください。



※グラフ中の数字はJR（鉄道）利用者の実数を示している

移動目的×交通手段選択理由

- ・ 自家用車: 全体的に「**自由なタイミング**」が最多。ただし目的別で見ると、【買物】では「**重たい荷物を持たない（64%）**」、【通勤】では「**時間通り（61%）**」の重要性も高い
- ・ 公共交通: 全体的に「**時間通り**」が重視される傾向にあるが、【買物】では「**乗り継ぎの少なさ（38%）**」、【通院】では「**徒歩移動の少なさ（38%）**」も同率で並ぶ。

設問：なぜその交通手段を選択していますか。（最大3つまで選択）

	徒歩移動が少なく 移動できるから	自由なタイミングで 移動できるから	所要時間がかからず に移動できるから	時間通りに目的地に 移動できるから	乗り継ぎが少なく 移動できるから	安く移動できるから	重たい荷物を持たず に移動できるから
移動手段：自家用車							
【買物】（n=342）	34%	86%	42%	23%	3%	1%	64%
【通院】（n=342）	37%	79%	45%	55%	5%	3%	5%
【通勤】（n=195）	31%	68%	47%	61%	5%	1%	13%
移動手段：公共交通							
【買物】（n=13）	15%	23%	31%	38%	38%	31%	23%
【通院】（n=21）	38%	19%	14%	38%	24%	24%	14%
【通勤】（n=5）	40%	20%	40%	60%	40%	20%	20%

※：表中のパーセンテージ標記の数値の算出方法の一例
買物目的の交通手段選択理由を回答した方342名のうち「自由なタイミングで移動できるから」を選択した方が293名存在。
 $293 \div 342 \times 100 \div 86\%$

※：目的別で第1位の選択肢を太字＋セルの着色で、第2位の選択肢を太字で示している

居住地×目的地

【買物】

- ・ 日南市民、志布志市民の9割は市内移動で完結しており、沿線市を跨ぐ移動需要は少ない
- ・ 串間市民の6割は市内移動で完結するが、3割は沿線他2市へ移動している

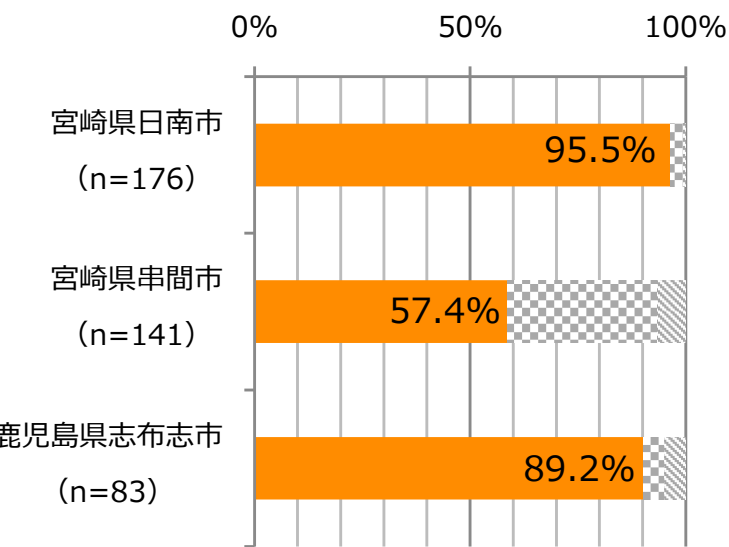
【通院】

- ・ 【買物】と比較して日南市民、志布志市民の沿線他2市以外への移動が増える傾向にあるが、沿線2市への移動の増加は少ない
- ・ 串間市民の沿線他2市への移動は更に増加する傾向にあり5割弱が移動している

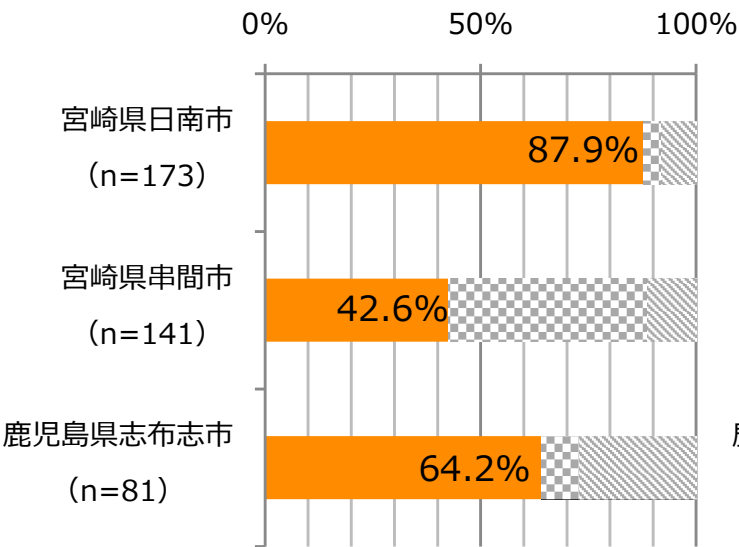
【通勤】

- ・ 3市ともに市内で完結する割合が最も高い傾向にある

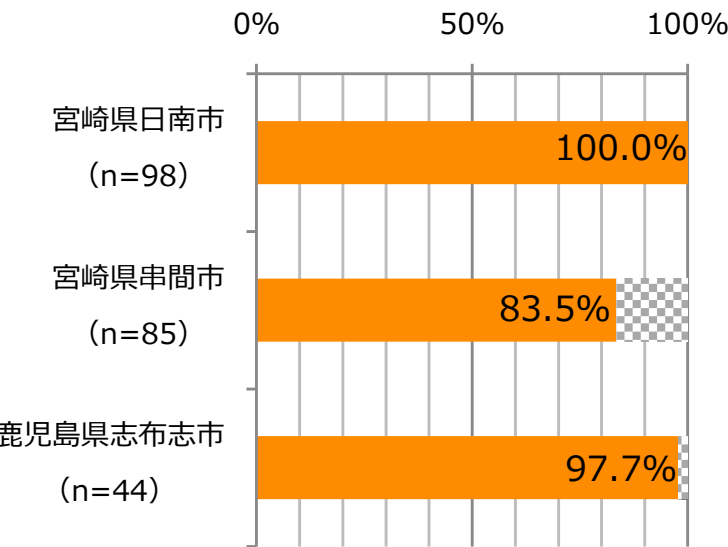
【買物】主な目的地をお答えください。



【通院】主な目的地をお答えください。



【通勤】目的地の所在地をお答えください。



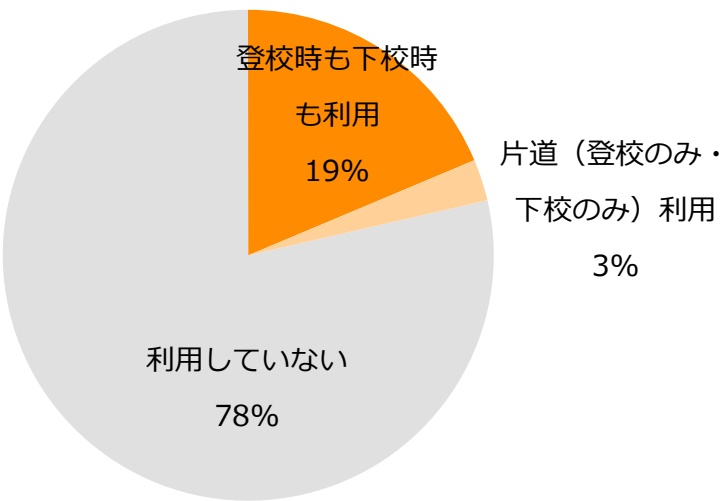
■ 市内完結 ■ 沿線2市への移動あり ■ 沿線2市以外への移動あり ■ 市内完結 ■ 沿線2市への移動あり ■ 沿線2市以外への移動あり ■ 市内完結 ■ 沿線2市への移動あり ■ 沿線2市以外への移動あり
※沿線2市・沿線2市以外への移動ありは、最大3つの回答のうち、沿線2市または沿線2市以外を1つでも選択した方の割合を示しており、沿線2市と沿線2市以外両方を回答した方は沿線2市以外への移動ありに含めた

日南線の利用頻度

- 日常的に（週に1日以上）日南線を利用している方は全体の2%であった。なお、沿線6高校の約2割は通学に日南線を利用している
- 「月に1~2日」利用している方は1割程度であり、「過去に利用したことはない」も含めると「年に1回程度」以下の利用者がアンケート回答者の9割弱である

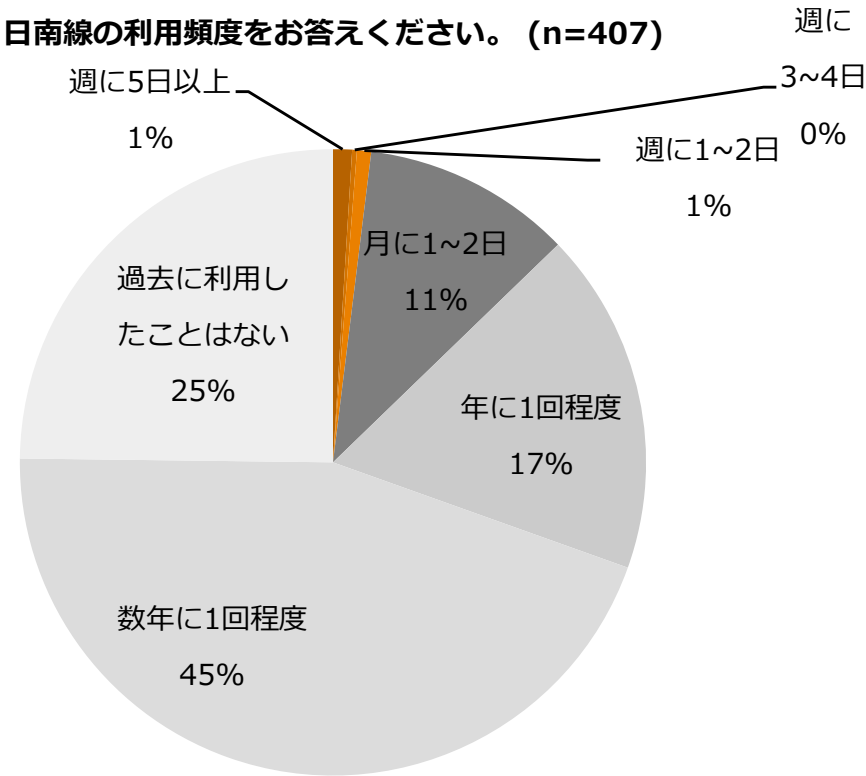
第2回検討会議資料より再掲

通学（登下校）に日南線を利用しているか。(n=916)



沿線6高校を対象としたアンケート調査
（高校生を対象）

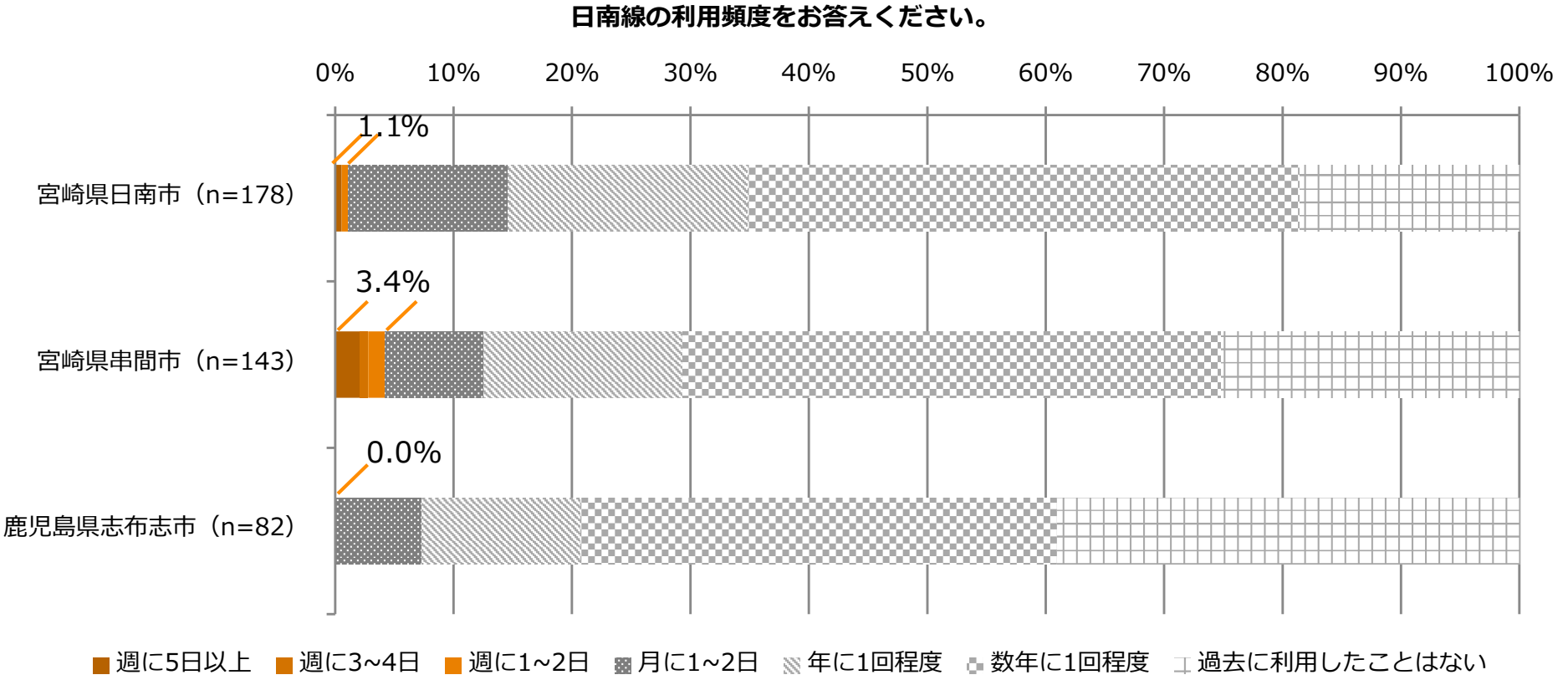
日南線の利用頻度をお答えください。(n=407)



沿線住民を対象としたアンケート調査
（各駅半径2km圏内に居住する19歳以上を対象）

居住地×日南線の利用頻度

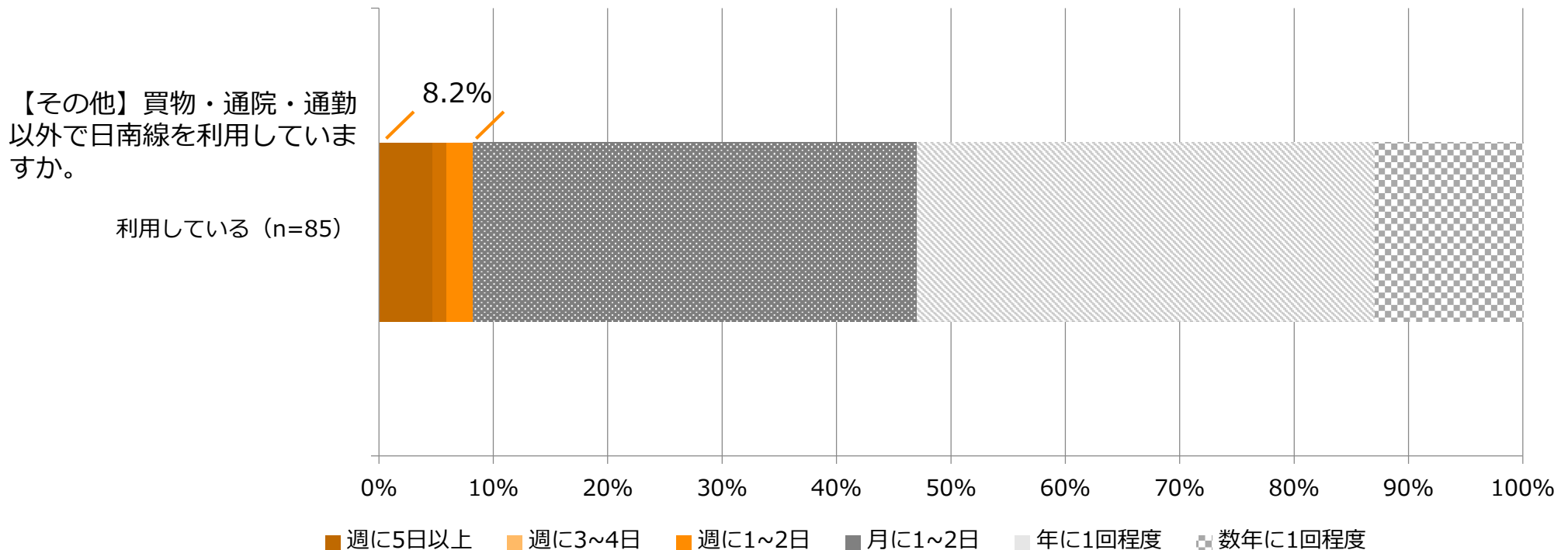
- 学生（小・中・高校生）以外で日南線を日常的に（週に1日以上）利用している方の割合は、串間市が最も多いものの3%にとどまっており、志布志市においては日常的な利用者は確認されなかった



【その他】 利用有無×利用頻度

- その他（買物・通院・通勤以外）の目的で日南線を「利用している」と回答した方の利用頻度は、「年に1回程度以上」は9割弱である一方、「週に1日以上」は1割弱であった

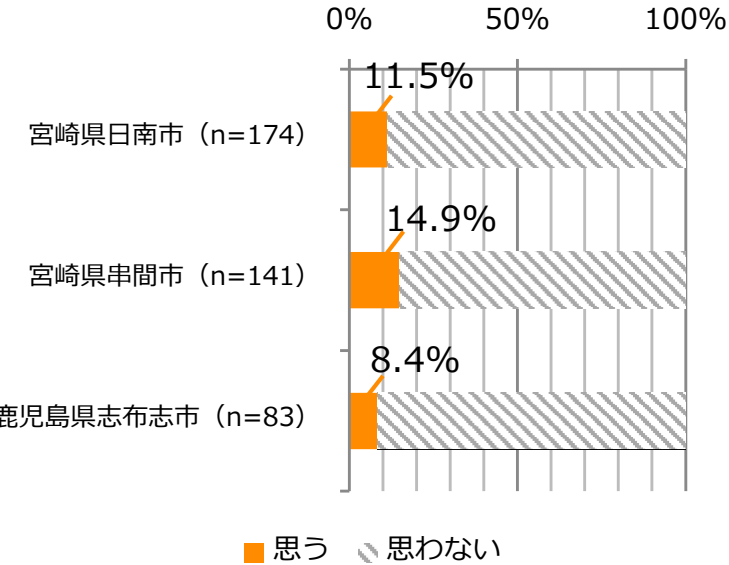
日南線の利用頻度をお答えください。



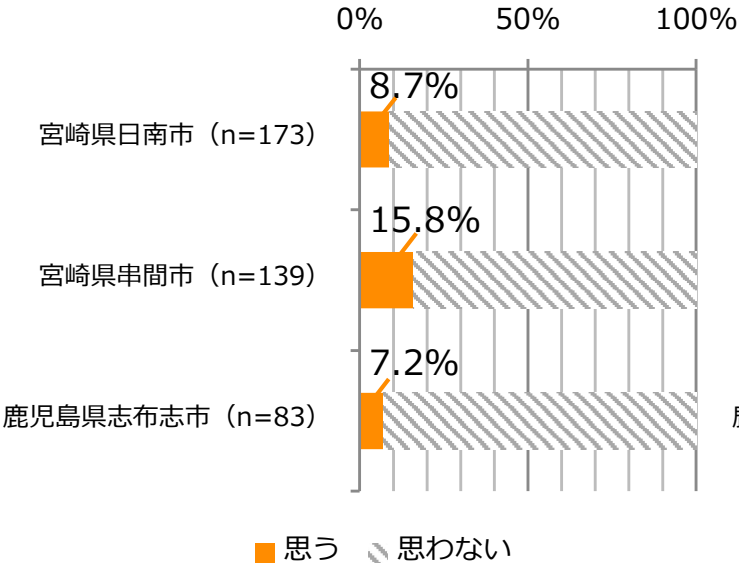
居住地×日南線の利用意向

- 日南線の利用意向は沿線地域全体で**1~2割程度**であった
- 目的別では串間市の【通院】が最も多く2割弱であり、志布志市の【通勤】における利用意向が最も低く2%であった

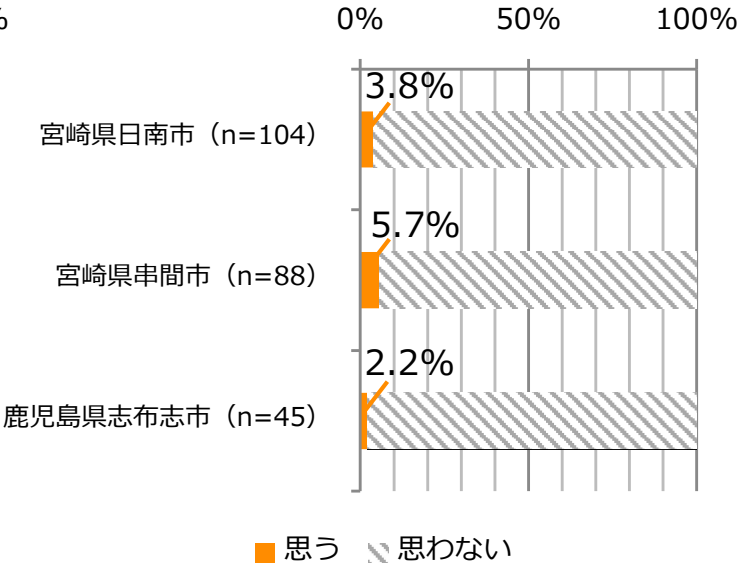
【買物】日南線を使って買物のための移動をしよう
と思いますか。



【通院】日南線を使って通院しようと思いますか。



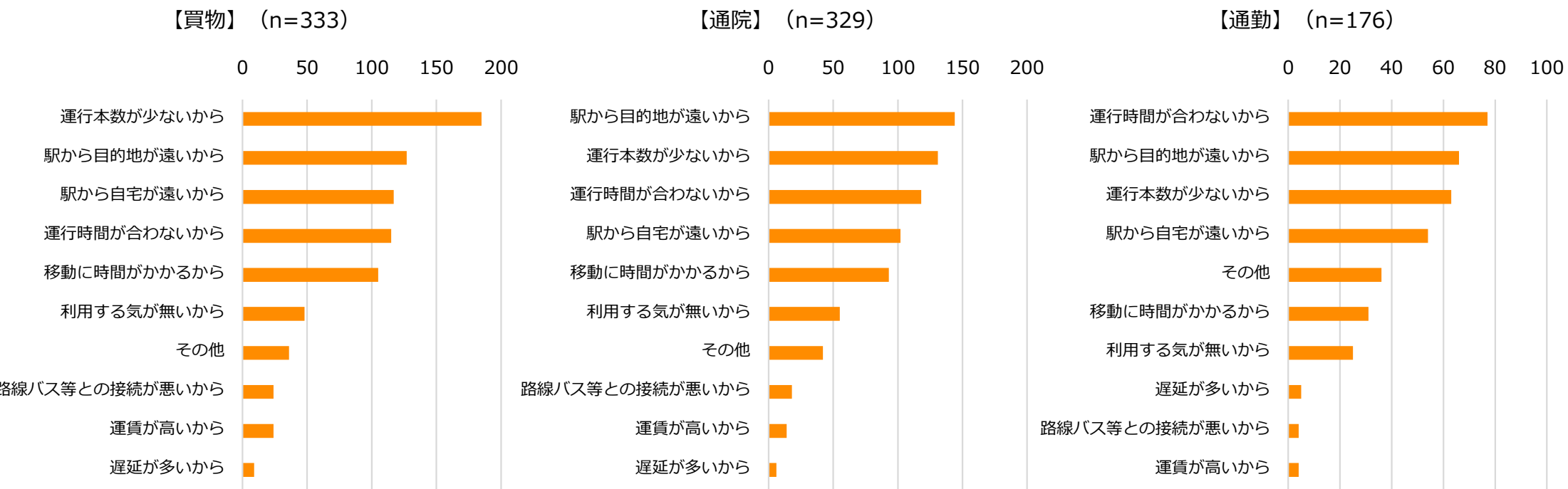
【通勤】日南線を使って通勤しようと思いますか。



移動目的×日南線で移動をしない・移動し難い理由

- 移動し難い理由は目的ごとに異なる傾向にあるが、「運行本数が少ないから」「運行時間が合わないから」等の**ダイヤに起因するものだけでなく**、「駅から目的地が遠いから」「駅から自宅が遠いから」等の**アクセスの悪さといった理由も上位を占める**

設問：日南線で移動をしない・移動し難い理由は何ですか。



沿線住民アンケート結果のまとめ（1/2）

● 移動目的×外出頻度

- ・ 買物・通勤：週に1日以上が9割強、通院：週に1日以上が1割程度

● 移動目的×交通手段

- ・ 自家用車（自身で運転）の割合が8割を超え、JRも含む公共交通利用者は2～5%

● 年齢×交通手段

- ・ 全世代で自家用車（自身で運転）の割合が最も多い
- ・ 80歳代以上において送迎（自家用車・病院）の割合が2割を超える

● 移動目的×交通手段選択理由

- ・ 自家用車：「自由なタイミング」が最多。【買物】では「重たい荷物を持たない（64%）」、【通勤】では「時間通り（61%）」の重要性も高い
- ・ 公共交通：「時間通り」が重視される傾向。【買物】では「乗り継ぎの少なさ（38%）」、【通院】では「徒歩移動の少なさ（38%）」も同率で並ぶ

● 居住地×目的地

- ・ 日南市・志布志市は市内移動で完結する割合が最も多い
- ・ 串間市は沿線2市への移動が買物で3割、通院で5割弱存在

沿線住民アンケート結果のまとめ（2/2）

● 日南線の利用頻度

- ・ 学生（小・中・高校生）以外で日常的に利用している方は全体の2%程度。月に1~2日程度が1割、年に1回程度以下の利用者が全体の9割弱

● 居住地×日南線の利用頻度

- ・ 串間市が最も多く1割程度、志布志市においては日常的な利用者は確認されなかった

● 【その他】利用×日南線の利用頻度

- ・ 利用有の方で「週に1日以上」は1割弱

● 居住地×日南線の利用意向

- ・ 利用意向は沿線地域全体で1~2割
- ・ 目的別には串間市の【通院】の利用意向が最も多く2割弱であり、志布志市の【通勤】における利用意向が低く2%であった

● 移動目的×日南線で移動をしない・移動し難い理由

- ・ 目的ごとに異なる傾向にあるが、運行本数・時間帯に係るものだけでなく、駅から目的地へのアクセスの悪さといった理由も上位を占める

第3回検討会議までの調査結果まとめ（その1）

第3回検討会議までに実施した調査や、データ・ファクトの確認・整理状況は以下のとおり

- JR九州保有データの確認（第1回）
 - 平均通過人員、駅別乗車人員等
- 沿線地域における利用促進等の取組状況の確認（第1回）
 - 日南線利用促進連絡協議会、線区活用検討会の取組等
- 鉄道乗込による乗降人員調査（第2回）
 - 各駅の乗降人員、各便の乗車人員、利用者OD等
- 各種アンケート調査（第2回、第3回：以下、表のとおり）

調査対象	沿線住民（高校生）	沿線住民（19歳以上）	沿線市外からの来訪者
鉄道利用者	• 鉄道乗込アンケート（第2回） • 沿線6校アンケート（第2回）	• 鉄道乗込アンケート（第2回） • 沿線住民アンケート（第3回）	• 鉄道乗込アンケート（第2回）
鉄道非利用者	• 沿線6校アンケート（第2回）	• 沿線住民アンケート（第3回）	—

第3回検討会議までの調査結果まとめ（その2）

第3回検討会議までに実施した調査等により確認した主な点は以下のとおり

- 第1回検討会議（日南線（油津・志布志間）の現状等）

- ・ 平均通過人員は、会社発足当初の 1987 年度から 2023 年度には 7 割以上減少しているものの、運行本数は8割を維持している
- ・ 平均通過人員の構成として、通学定期による利用が 7 割を占めている
- ・ 自家用車の保有率の上昇や高規格道路の整備が進むなど社会情勢が変化しており、利用者が減少しているものと推測される
- ・ 利用者のメインとなっている 15～19 歳の人口推移について、10 年後で 20%、20 年後で 40%の減少が見込まれている

- 第2回検討会議（鉄道乗り込み・アンケート調査、沿線6高校へのアンケート調査）

- ・ 日南線（油津～志布志間）は、通学利用が中心であり、朝の登校時間帯は集中傾向で混雑する一方、夕方の下校時間は分散傾向にある
- ・ 沿線高校生の約2割が通学利用しているが、70歳以上の方の利用は少ない
- ・ 利用者の目的地は飫肥が最も多く、宮崎市中心部まで乗車する方も一定数存在する
- ・ 利用者からは、運行本数や時間帯の拡大に関する要望が最も多い

- 第3回検討会議（駅2km圏内に居住する19歳以上を対象としたアンケート調査）

- ・ 移動目的によらず、自家用車（自身で運転）を主な移動手段としている人の割合が8割を超えており、公共交通利用者は2～5%である
- ・ 日常的に利用している方は全体の2%程度。月に1～2日程度が1割、年に1回程度以下の利用者が全体の9割弱である
- ・ 日南線を利用しない理由としては、運行本数・時間帯に関係するものだけでなく、駅から目的地へのアクセスの悪さといった理由も上位を占める